

地層からみた地盤科学

小林 巖雄*

大学の地質鉱物学科に入学して以来、40年以上も過ぎようとしています。この間地球の構造やその歴史、とくに新生代の自然史に興味を持ち、その解明法を学んできました。その基本である野外での歩き方、層序の組み立て方を学び、地層の見方は学び始めた時から非常に進歩し、地質図がすっかり書き改められました。私自身も新潟油田地帯の地質図を少しずつでしたが、塗り変えてきました。30年前に新潟大学へ赴任して学生にその方法を教える立場になり、野外の実践を通して、地層累重の法則、地層同定の法則を地質学の基本原理として教え続けてきました。地層は地質学において最初の認識対象です。この認識なしには地球の歴史を解明することはできません。地質学はこの地層の研究に始まり、進化する地球史の法則を究める歴史科学で、理学の1分野としての基礎科学です。昨今、基礎科学の重要性を耳にしますが、それが真の声なのか疑問に思うことがあります。基礎科学は物質の存在の理を究めることで、その結果の利用は、先のことになることも多々ありますし、真実を把握した結果であれば、必要性が求められたときに、速効性がおおきいでしょう。

さて、地盤という言葉が一方で、同じ地層を指して使われています。しかし、その内容はまったく違う意味を持っています。これは基礎科学の言葉ではなく、応用科学の言葉です。地層と地盤は同じ対象を異なる立場（目的）から見たことになります。これまで地層を見ているとき、地盤としての意識をまったく持たずにながめてきました。地表を様々に利用する時には、地層は構造物の基礎を置く地盤にかかります。地層を地盤としてみる訓練を要します。地質の専門では、地層は地層としての見方、考えることがなく、応用地質の分野でこの両者の間系が問われることになります。いまだ地層を見ることのできない者ですが、これからは地盤として地層をみることも努めたいと考えるようになりました。

地盤の本質の究明には、地盤を地層として見る必要性を欠かせないと思います。地盤の個々の特性を解明するには、地層の履歴を明らかにする必要があると、よく言われます。若いフレッシュマンに学びつつ、私も地層の歴史性とゆう観点から平野の地盤との相互関係を知る努力をこころみ、「地層からみた地盤の科学」に首を突っ込んで見ようかと考えているところです。応用科学はしばしば「臨床」の科学でもあり、実践力、判断力を求められています。

* 新潟大学理学部地質科学教室